



AMG上尾中央総合病院  
総合診療専門研修プログラム

専攻医募集案内

上尾中央総合病院



## プログラム統括責任者からのメッセージ

総合診療専門医は今回の新しい専門医制度施行に際して、新たに設けられた専門医で、「主に地域を支える診療所や病院において、他の領域別専門医、一般の医師、歯科医師、医療や健康に関わるその他の職種などと連携し、地域の医療、介護、保健など様々な分野でリーダーシップを発揮しつつ、多様な医療サービスを包括的かつ柔軟に提供する医師」と定義づけられております。

当プログラムは人口約60万人の埼玉県県央医療圏の中核病院である上尾中央総合病院で約2年半研修いたします。当院では今回の新制度施行に先んじて、患者さんの様々な諸問題に対応できる専門医が必要と痛感し、2013年に総合診療科を開設し、後期臨床研修を行ってきました。

当院での研修期間は救急総合診療科を中心に、専攻医の希望に応じ比較的自由に各診療科をローテート研修していただきます。また地域の小規模病院で、より地域の患者さんに密着した研修を6ヶ月行っていただき、様々な場面で医療に関わる諸問題に対応できる能力を身に付けていただきます。

当プログラムで研修していただくことで、総合診療専門医として標準的な知識・臨床能力のみならずプロフェッショナリズムを修得し、研修修了後も生涯にわたり自己研鑽を積んでいけるものと期待します。

総合診療プログラム統括責任者 高沢 有史

## 先輩専攻医からのメッセージ

2020年度に初期研修を終了し、2021年にAMG上尾中央総合病院総合診療専門研修プログラムに入職しました。昨年は1年間総合診療科にて誤嚥性肺炎や尿路感染症といったcommonな疾患から、COVID-19のような新興感染症、複数の疾患・問題点を抱える患者の全身管理・集中管理まで幅広い疾患の診療を経験しました。

現在は、専攻プログラムにて小児科・救急科・地域研修を行っている最中であり、疾患だけでなく年齢も幅広く・急性から慢性期の患者さんまで様々な場面で診療する経験を積むことができます。基本的には自分主体で日々の診療を行っていきませんが、問題点やわからないことがあれば上級医のバックアップがあるためすぐに相談して診療をすすめることができます。このような環境に身を置いて様々な経験や知識を身に付けていきませんか？先輩としては是非お待ちしております。

総合診療科では臓器や専門領域の枠にとらわれず幅広い疾患の診療を行っております。内科疾患だけでなく、時に外傷などの診療をすることもあります。診療の場も様々で、外来で生活習慣病の診療をすることもあれば、ICUで重症の方の診療をすることもあります。COVID-19の診療も積極的に行っています。また、退院調整に力を入れており、患者さんの身体的・精神的な側面のみならず社会的な問題にも取り組んでいくこととなります。総じてジェネラリストとして幅広い問題に対処する能力が鍛えられると思います。是非一度見学にいらして下さい。

玉木 翼



大藪 早平

# 総合診療科からのメッセージ

## 総合診療医の道を選ぶ皆さんへ

医学と医療はまさに日進月歩を続けています。様々な診断法は飛躍的な進歩を遂げ、不治の病とされた疾患に治療への道が開かれています。それらを駆使して国民の健康を守るのが、私達医師に課せられた使命です。

しかし、そうした専門技術・最新技術だけでは解決しえない問題を地域社会は多く抱えております。今回の新専門医制度施行にあたり、その地域に住まわれる皆さんの健康・医療にかかわるあらゆる諸問題に対応する専門家として総合診療専門医が定義づけられました。

当院が位置する埼玉県県央医療圏は日本のその他の市町村同様に、核家族化や人口の高齢化の進行が顕著で様々な問題をかかえております。皆さんには、当院を中心としたプログラムで十分に研鑽を積み、地域の保健・医療・介護・福祉等の様々な分野におけるリーダーシップを発揮しつつ、多様な医療サービス(在宅医療、緩和ケア、高齢者ケア、等)を包括かつ柔軟に提供できる有為な人材になっていただけるものと確信いたします。

上尾中央総合病院 院長 徳永 英吉

## 病院の特徴

当院は1964年12月に11床の上尾市立病院を前身として設立し、これまで地域住民の信頼と支持を得て発展してきました。現在では733床の急性期医療を中心とした総合病院となり、また2015年12月には地域医療支援病院の指定を受け、上尾市のみならず埼玉県県央保健医療圏の基幹病院として重要な役割を果たしています。

また、首都圏を中心に28病院を有する上尾中央医科グループの中枢として、積極的に医療の質の向上に取り組むと共に、患者本位の医療サービスを提供することを心がけ、日本医療機能評価、プライバシーマークなどの第三者評価を積極的に受審しています。

さらに、高度最新医療機器の導入も積極的に行っており、2013年にはダビンチサージカルシステムの導入、2014年にはハイブリッド手術室を新設し、また2015年3月にはTAVIを導入するなど最先端の医療にも取り組んでいます。

最後に、当院は基幹型臨床研修指定病院であり、2015年には看護師の特定行為に関わる研修についての指定研修機関(特定行為13区分)の認可、2016年には臨床修練等指定病院の指定を得ています。また毎年、指導医のための教育ワークショップや緩和ケア研修会を主催しており、教育病院としても積極的に取り組んでいるとともに、2017年には中村記念講堂を新設し教育および研究環境の充実を図っています。



# プログラムの特徴と研修スケジュール

## 概要

AMG上尾中央総合病院総合診療専門研修プログラム(以下、本研修PG)は、「高度な医療で愛し愛される病院」という病院理念のもと、幅広い知識・技能を修得し、医の倫理・医療安全に配慮した患者中心の医療を実践し、なおかつ地域包括ケアや予防医療についても十分な知識と経験を有し、地域におけるあらゆる健康問題に対応できる総合診療医を育成する内容です。

基幹施設である上尾中央総合病院は人口約60万人の埼玉県県央医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核になります。一方で地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディーズの経験はもちろん、複数の病態を持った患者や比較的稀な疾患の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験することができます。

また、年間救急車搬入約1万台弱、独歩患者数約2万人のERをもつ上尾中央総合病院は県央医療圏を越えて広域に救急患者が訪れる救急医療の中核病院であり、専攻医はER当直を行い、救急科指導医(救急科専門医以上)の指導の下、救急研修を行い「救急医療の専門医」として必要十分な経験を積むことができます。さらに、埼玉県がん診療指定病院でもあることから、がんの診断・抗がん剤治療・緩和ケア治療・放射線治療・内視鏡検査／治療など、幅広いがん診療も経験できます。

初期臨床研修指定病院であり、30名強の初期臨床研修医が在籍し、上級医として彼らの指導に当たることにより知識や技能を確実に身に付け、連携施設の研修では上尾中央総合病院では経験不十分なより一層地域・患者さんに密着した診療を全人的に提供するとともに、地域のニーズを踏まえた疾病の予防、介護、看取りなど保健・医療介護・福祉活動に取り組みます。

以上の研修に加え、絶えざる自己研鑽を重ねながら人々の命と健康に関わる幅広い問題について適切に対応する総合診療専門医となることを目指すプログラムとなっています。

## プログラムの特徴

屋根瓦方式の  
教育体制

内科全般におよぶ  
豊富な症例

カンファを通じての  
教育と情報共有

- 検査データの解釈の仕方や画像の読み方、最新のガイドラインや論文の紹介なども毎日のカンファレンスの中に盛り込んだ教育的カンファレンス。
- 患者背景も踏まえてのEBMの実践。
- 肺炎や尿路感染を筆頭に、豊富な感染症症例が経験できる。
- 初診の重症内科救急は当科入院することがほとんどで、ICU管理も学ぶことができる。



## 研修スケジュール

専門研修1年次は、基幹施設である上尾中央総合病院にて総合診療専門研修IIの研修を行います。専門研修2年次・3年次では、主に上尾中央総合病院にて内科領域別選択研修(1年)および小児科(3ヶ月)・救急科(3ヶ月)の領域別必須研修を行い、また連携施設からの選択により、総合診療I(6ヶ月)の研修を行い、総合診療専門医に必要な知識や技能を補います。

### ローテーション(例)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	施設名	上尾中央総合病院 救急総合診療科											
	領域	総合診療II											
2年次	施設名	上尾中央総合病院 救急総合診療科			上尾中央総合病院 小児科			連携施設					
	領域	救急			小児			総合診療I					
3年次	施設名	上尾中央総合病院 循環器内科			上尾中央総合病院 消化器内科			上尾中央総合病院 血液内科			上尾中央総合病院 糖尿病内科		
	領域	内科選択			内科選択			内科選択			内科選択		

※本研修PGの研修期間は3年間としていますが、修得が不十分な場合は修得できるまでの期間を延長することになります。

※内科研修選択は1科につき3ヵ月以上研修とします。

## 基幹施設と連携施設マップ



## 基幹施設概要

名称：医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院

所在地：埼玉県上尾市柏座1-10-10

院長：徳永 英吉

設備：ハイブリッド手術室

手術支援ロボット ダビンチXi:2台、  
CT(マルチスライス256列1台、64列2台)、  
血管造影装置(パイプレン:3台)、  
MRI(3.0T:2台、1.5T:1台)、RI:2台、  
各種レントゲン、X線TV:6台、  
骨密度測定装置:2台、腎尿結石破碎装置、  
リニアク:1台、他

## 基幹施設の診療科目

内科/循環器内科/消化器内科/脳神経内科/糖尿病内科/膠原病内科/  
腎臓内科/血液内科/呼吸器内科/呼吸器腫瘍内科/肝臓内科/アレルギー疾患内科/感染症内科/腫瘍内科/緩和ケア内科/心療内科/小児科/  
産婦人科/外科/整形外科/脳神経外科/心臓血管外科/消化器外科/  
肝臓外科/乳腺外科/呼吸器外科/気管食道外科/肛門外科/内視鏡外科/  
小児外科/泌尿器科/女性泌尿器科/耳鼻いんこう科/頭頸部外科/眼科/  
形成外科/美容外科/皮膚科/麻酔科/救急科/放射線診断科/放射線治療科/病理診断科/臨床検査科/リハビリテーション科/歯科口腔外科/総合診療科(院内標榜)/臨床遺伝科(院内標榜)

## アクセスマップ

### 上尾駅からのご案内

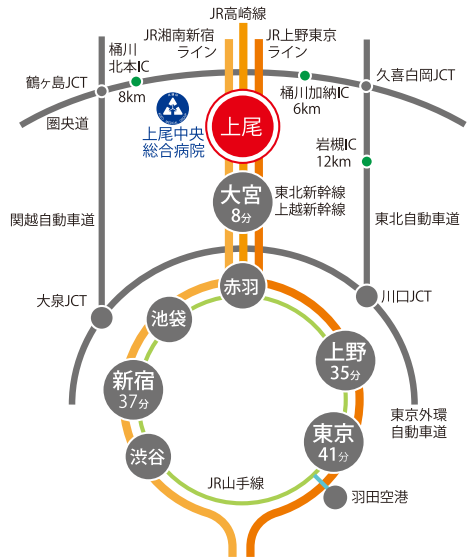
- 【電車でお越しの方】 JR高崎線 上尾駅西口より徒歩3分
- 【市内循環バスでお越しの方】 “ぐるっとくん”「上尾中央総合病院」停留所下車
- 【お車でお越しの方】 駐車場あり

※駐車場(有料)の台数には限りがございますので、できる限り公共交通機関でご来院頂きますようお願い致します。



### 交通のご案内

- 大宮から JR高崎線：約8分
- 上野から JR高崎線：約35分
- 新宿から JR湘南新宿ライン：約37分
- 東京から JR上野東京ライン：約41分



医療法人社団 愛友会

## 上尾中央総合病院

〒362-8588 埼玉県上尾市柏座1-10-10  
TEL.048-773-1111(代表) FAX.048-773-7122

URL <https://www.ach.or.jp>

担当：人事課秘書係(臨床研修担当)

Mail: [ishi\\_jinji@ach.or.jp](mailto:ishi_jinji@ach.or.jp)

2023年4月～



# 連携施設

## 総合診療科I 連携施設

### 1 JCHOさいたま北部医療センター

- 内科は循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科、糖尿病内科が常勤として勤務し、全体で総合内科として機能しています。
- 在宅医療の分野にも力をいれており、機能強化型在宅療養支援病院として連携を取っている在宅療養支援診療所と定期的なカンファレンスを開催し患者の情報を共有しています。附属の訪問看護ステーションおよび居宅介護事業所を有しており、毎週多職種でカンファレンスを行い個々の在宅患者の問題点に関して検討しています。
- 小児科は常勤医3名で外来・入院医療に対応しております。医師会の先生方や基幹病院の先生方の助けを借りながら、さいたま市の委託事業として小児休日夜間急患センターを開設し365日小児の時間外初期医療を提供しています。
- 入院医療に関しては急性期医療の提供のみならず、地域包括ケア病棟を設け、さいたま市北区の地域包括ケアシステムが円滑に機能する一助となるよう尽力しています。



### 2 関越病院

- 高齢者を中心に幅広い患者層を持ち、地域住民が必要とする急性期医療を質の高いレベルで提供しています。その一環として救急車の受入も年間3,000台程度実施しています。
- 基幹型臨床研修指定病院として、プライマリ・ケアの実践、習熟を目的とした研修プログラムを保持し、毎年研修医の受入れを行っています。
- 地域の健康増進活動として院内では予防栄養指導や禁煙外来などを、院外では市民会館等での生活習慣病予防などの市民公開講座も主催しています。
- 「地域の誰にでも、いつでも質の高い継続性のある医療とケアを提供する。」という病院の理念の下、退院後も在宅医療や訪問看護、在宅看取りも含めた包括的な診療を提供しています。
- 病院の関連施設として地域包括支援センターや、介護老人保健施設を運営し、トータルヘルスケアの実践を目指しています。



### 3 小豆畑病院

- 当病院は「急性期病棟（10対1看護基準）」を中心に医療療養病棟・訪問診療等、地域の包括的診療を展開しています。
- 2015年11月「在宅療養支援病院」として認定を受けています。
- 2011年2月「日本大学医学部板橋病院」の関連病院として認定を受けています。
- 2018年4月より「救急告示病院」認定、救急科指導医3名、専門医4名の体制で救急医療を行っています。
- 同医療法人内に「地域包括支援センター」「介護老人保健施設」「居宅支援事業所」「訪問看護・訪問介護ステーション」がある。同敷地内にも関連社会福祉法人施設「特別養護老人ホーム」「地域密着型サービス施設」があり常時連携を図っています。



### 4 皆野病院

- 外来患者は、高血圧症、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病が多く、入院患者は、肺炎、心不全、脳卒中などが多いですが、手術症例も多数あります。
- 二次救急病院で秩父地区病院群輪番制病院です。2021年度の救急車受入件数は、年間約1,000件実施しています。
- 指導体制は、内科医師は1名ですが、外科専門医が2名おり、医師同士、科同士の垣根が低いので、様々な症例を経験、研鑽が積める環境です。
- 病院内に居宅支援事業所、訪問看護があり、定期的な訪問診療も行ってあります。



### 5 石垣島徳洲会病院

当院は徳洲会グループとしては日本最南端にある病院です。「命だけは平等」の信念のもとに地域医療を行っています。病床数は一般病床49床にコロナ病床13床を追加した62床の小規模病院ですが、地域密着型診療を展開しています。当院での研修では以下のことを心がけています。

- 離島僻地医療を経験する  
初期研修とは異なり診療に責任を持つことが必要です。救急外来、一般外来、病棟管理、透析診療、在宅診療、介護系医療（通所リハビリテーションなど）、検診業務などを経験し離島ならではの地域医療を体験します。
- 問題解決能力を身につける  
教育システムとしては充足していませんので工夫が必要です。目の前の問題をどのように解決するのか。それは医療だけではなく社会人として求められる能力であり人生に役立つ力を身に着けます。もちろん、私たちスタッフもサポートいたします。
- 島を楽しむ  
僻地・離島研修はその地域に溶け込み交わることと考えています。石垣島の自然・文化に触れ都会にない楽しみ方を体験してほしいです。



## 6 気仙沼市立本吉病院

●当院は内科等の5科を標榜していますが、診療を総合診療形式で運営し、本吉地区唯一の病院として、医師全員が子供からお年寄りまで対応しています。

外来では高血圧や糖尿病といった生活習慣病の治療と同時に、抑鬱などの精神科領域も含めて患者さんの困りごとに診療科の境界を設けず対応しています。

●外来・入院・訪問の全ての診療形態をそろえることで、地域住民の多くに対応できるようにしています。訪問診療は訪問リハビリ、訪問栄養指導も合わせて実施しています。

小さな病院ならではの小回りの利いた連携が出来ていて、外来・訪問・病棟と院内連携のほか、外部の他職種連携にも力を入れ、顔の見える関係づくりが出来ています。

●口から食べる取り組み勉強会、感染管理などの研修を各委員会中心に積極的に行い、地域へも発信しています。

●地域の小規模多機能病院の可能性について、当院の活動を通して発信していることは、かかりつけ医として、高齢者のみならず、地域で起こる多くの医療問題の窓口になれることと、住み慣れた土地で最期まで生活することを強く支援し、「時々入院ほぼ在宅」が施設を含めて地域で実現できることです。



## 7 徳之島徳洲会病院

徳之島は、100歳以上の高齢者の割合と合計特殊出生率が全国トップレベルで「長寿・子宝の島」として有名です。

その徳之島において、当院は出産数年間約140件で島内唯一の周産期施設であり、また登録者約230名の在宅患者を抱え、24時間365日在宅での看取りにも対応しています。

さらに徳洲会の理念「断らない救急」のもと、年間救急搬送約900台の救急医療とそれに続く急性期医療、年間約50件に及ぶ島外へリ搬送にも対応し、徳之島における医療の最前線かつ最終拠点を担っています。周産期から100歳を超える超高齢者までを対象とした医療を担う病院。いのちの始まりから終わりまでの場面に立ち合い、関わり続けること。ここではそんな医療の現場に触れることができます。



## 8 哲西町診療所

岡山県新見市哲西町は岡山県西北端にあり、人口2,300人、高齢化率48%です。2001年10月保健医療福祉のほか行政、教育、文化など各種機関を一箇所に集約した全国でも全く新しいタイプの複合施設「きらめき広場・哲西」〔役場本庁（2005年3月31日～合併により新見市役所哲西支局）、診療所、歯科診療所、保健福祉センター、生涯学習センター、図書館、文化ホール、現在認定こども園も）を建設し、1年2ヶ月続いた無医町を解消しました。医師が町長、教育長（2005年3月31日～合併により新見市哲西支局長）と同居することで「町の方向性」につき適時、的確に提言でき、最重要施策である地域包括医療の実践へと繋がりました。また「医療も行政サービスの一環」と捉え、行政も医療に対して理解し、医師も行政の仕組みを理解し、互いに協力しています。

国民はどこにいても同じレベルの医療を受ける権利を有することは言うまでもなく、聴診器1本時代から脱却し医療機器等も整備し、へき地においても適時的確な医療が提供されるように努力しています。診療所は「かかりつけ医」としてあらゆる科の一次医療を担い、いつでも何でも診る医療、その人を最期まで診る医療を展開しています（24時間365日体制）。CTや上部・下部消化管内視鏡など高度機器を駆使した確な診断に心がけ、早期癌も多数発見しています。月30例の紹介状を書き、病診連携にも努めています。訪問診療・訪問看護を行ない、終末期の在宅死についても支援しています。

元気老人対策としてボランティアの方が中心となりミニディサービスを毎月開催し、健康講座に医師・看護師も参加し、保健活動を強化しています。ケア会議は月1回、役場、福祉施設、社協、診療所、歯科診療所、民生委員も参加し、個々のケース検討を重ね、今後の方針を話し合っています。

地域包括ケアは、高齢者に重点が置かれがちですが、教育委員会、学校、PTAや保健スタッフ、NPOと連携し、子育てサロンや、小中学校で授業をすること等で子供や家庭の健康づくりに力を入れ、高齢者、障害者だけでなく、子供を含めた全世代に対する地域包括ケアを実践しています。

哲西町では、住民が最も切望した診療所を行政の中心に置き、生活基盤である「医療」に力を入れ、更に保健福祉センターや教育行政も同一施設内に設置しました。従来は連携が難しかったこれらのスタッフが繋がりをもち、そのうえ住民が自由に行き来することにより、身近できめ細やかな総合的サービスの提供が可能となりました。このように、全世代的、包括的、総合的に健康づくりに取り組み介護・福祉だけでなく行政を、そして住民をも巻き込んだ地域医療を展開しています。

研修は、できることは全て何でもやってもらう実践型研修です。（1人で外来診療を行い訪問診療や往診、予防接種や産業医、学校医、健康講座や救急患者さんの診療、Echoや胃大腸内視鏡など）（もちろんバックアップをしています。）

診療終了後、夕方よりその日の全てのカルテをひっくりかえしてのカルテカンファレンス（2時間位）を実施し、研修医が診た患者さんについてのフィードバックはもちろん、その日入院した全ての患者さんについてカルテカンファレンスを行います。

また地域包括ケアを知るため、地域資源をフル活用し研修をすすめています。特に多職種（保健 医療 福祉 行政 NPOなど）の方々から色々な話が聞けるようにしています。（市長、副市長、元町長をはじめ指導医、保健師やケアマネージャー、小・中 学校長など）実際の患者を通して、地域包括ケア会議参加などで、多職種の連携の大切さを知ってもらうようにしています。

地域包括ケアの実践を保健医療福祉の充実一体化にとどまらず行政・教育・文化・産業とも連携し「まちづくり」を大きく変えようとしています。

医療を含め、また医療を取り巻く様々な職種や住民の方々に触れ、「医療が地域やまちづくりを変えていく」そんな地域医療のすばらしさや魅力、醍醐味に触れてみませんか。

当診療所では総合診療Ⅰの研修が可能です。



## 内科 連携施設

### 1 日本大学医学部附属板橋病院

●総合内科は幅広い疾患に対する初診を中心とした外来診療、初診時に専門診療科が明らかにならなかったER患者の初期入院診療、一次・二次救急診療を行っています。

●内科には、呼吸器内科、血液膠原病内科、腎臓高血圧内分泌内科、循環器内科、消化器肝臓内科、糖尿病代謝内科、神経内科、総合内科の各専門内科があり、専門医療を提供しています。当院で研修を行う場合、6カ月間の総合内科研修および3つの選択科で各2カ月間研修を行います。

